

- 実施主体：豊平峡ダム統合管理事務所 ■ダム活用箇所：ダム堤体 ■所在地：北海道札幌市南区定山溪
- ダム管理者：北海道開発局札幌開発建設部豊平峡ダム統合管理事務所 ■ダム完成年：1972（昭和47）年
- ダム形態：アーチ式コンクリートダム ■ダム来訪者数：1.4万人/年（資料館・冬季閉鎖）
- ダムカード配布数：約7,400人/年

■取り組みのポイント

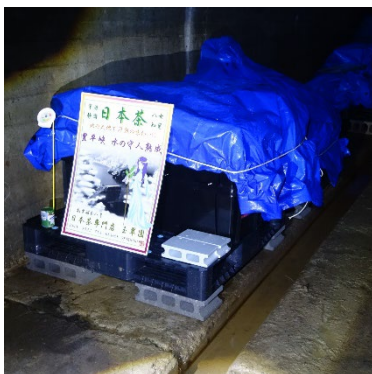
- ①管理上の役目はない、ダム作業用トンネルを有効活用し、地域の特徴あるものづくり支援、集客増加等の付加価値向上を図るため、貯蔵実験を実施。現在社会実験期間中。
- ②入室はダム管理所職員立ち会いの場合のみに限っている。
- ③ワインの他、「原料」（茶葉）の貯蔵実験も実施。
- ④ダム貯蔵品としてラベル明記することで、ブランド化。

■取り組みの概要

- ・河川法の準則の改定に伴い、ダム作業用トンネルを有効活用し、地域の特徴あるものづくり支援、集客の増加や付加価値の向上を図るため、貯蔵実験を実施している。主な取り組み状況は次の通り。
- ①平成27年から、豊平峡ダム作業用トンネルが商品の貯蔵に適し、品質向上に繋がるかどうか民間企業と連携し、社会実験（当初5カ年計画）を開始した。
- ②平成27年度から、定山溪観光協会と旅行会社の企画により、ダム貯蔵ワインを活用したダム見学ツアーや星空観察ツアーを実施した。
- ③平成28年度、29年度は、貯蔵したワインと茶葉の官能試験を一般公開し、マスコミに取り上げられた。



豊平峡ダムの建設時作業用トンネルを活用し、貯蔵の社会実験を実施。扉は施錠しており、職員同行のみ入室可能。



貯蔵状況。原料系の貯蔵では熟成技術のノウハウ流出とならないような秘密保持の管理が必要となる。

トンネル内部。温度計・湿度計を設置し、職員が記録している。

■人・組織

- ・ダム管理者が社会実験として取り組んでいる。トンネルへの入出管理・同行もダム管理者が実施。

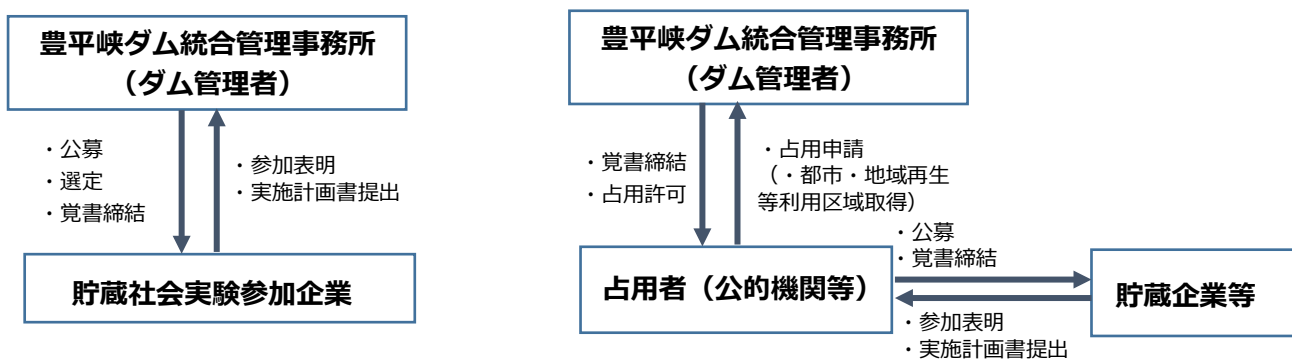
■しくみ

〔事業スキーム〕

- ・社会実験期間中のため、ダム管理者が公募し、貯蔵を行い企業から実施計画書の提出を受け、覚書締結により運用している。
- ・社会実験終了後は、事業者を公募し審査選定する方針。併せて、公的機関や協議会等による占用利用とする方針で検討している。
- ・貯蔵状況を確認するための官能試験を、ダム管理者と貯蔵会社が連携して、公開で実施している。

〔安全対策〕

- ・トンネル入出時は職員同行（施錠箇所の開閉）とし、ヘルメット着用を義務づけている（管理者からの貸し出しも実施）。



事業スキーム（左：社会実験時 右：社会実験終了後[想定]）

■地域連携方策

- ・貯蔵品の試験的販売では、ダム貯蔵品としてラベル等に記載することで付加価値をアピールしている。
- ・定山溪観光協会と旅行会社の企画により、ダムにおける星空観察会を実施する際、ダムトンネル熟成ワインを提供する「豊平峡ダム&星空プレミアムカフェ」を実施した。



出典：豊平峡観光協会
ホームページ

〔貯蔵を行う場合の留意事項等〕

- ・酒類は醸造所から出荷した状況となるため、製品化（ラベル等添付）や酒税支払い等が発生する。
- ・湿度が高いことから熟成の進み方が他の保管場所と異なるため、長期間の貯蔵を考慮する必要がある。
- ・原料系の貯蔵では、貯蔵環境や貯蔵可能量、運搬方法等を検討する必要がある。
- ・熟成技術を活用した原料系（茶葉等）の貯蔵では、産地・ブレンド量等の把握につながる貯蔵量、熟成年数等、情報の秘匿を要するため、情報流出防止の管理（立入者の制限等）や1トンネル1業種による活用等に留意する必要がある。

■取り組みの成果

- ・茶葉熟成では、事業者が平成28年に「日本茶葉 AWARD2016」で入賞（北海道で初受賞）。
- ・豊平峡ダムにおいて貯蔵効果が見られた為、定山溪ダム作業トンネルでも平成29年度から日本茶葉、平成30年度から日本酒等の貯蔵を開始。